

**卒業論文**  
**子どもを育むスポーツ指導について**  
**—指導者の現状から問題解決への一考察—**

石井湧大 ([2121101023yi@tama.ac.jp](mailto:2121101023yi@tama.ac.jp))

### 1. 研究の動機・目的

私は梅澤ホームゼミナールで諏訪小学校と地域の連携づくりプロジェクトの地域活動をしてきた。またスクールインターンシップで多摩市内の中学校で体育などの授業と野球部の補助をしてきた。アルバイトでは、ベースボールスクールの指導者として子どもたちに野球を教えている。更に大学生インターンシップとして、埼玉西武ライオンズアカデミーでコーチ指導のサポートをしていた。

しかしながら、私は経営情報学部の学生であり、幼児体育を専門に学んでおらず、野球指導のアルバイトを始める前に研修も無かった。このようなスポーツ指導者が指導する現状は、スポーツを通じて子どもが身体能力を育み、スポーツを楽しめる人間を育てる環境といえるのだろうか。

この論文では指導者の現状から問題と解決策を考えて、子どもを育むスポーツ指導とは何かを研究する。

### 2. スポーツ指導者の現状

スポーツ少年団では発育・発達期の子どもたちを指導するので、スポーツ活動をめぐるマナーやエチケットに関する指導をはじめ、生涯スポーツの芽を育てるために、子どもたちの発育・発達段階、志向に応じた遊びを通した身体づくり、動きづくりの指導を行う。

学校運動部活動の指導ではスポーツの意義や運営の在り方などを十分に理解した上で、指導者は子どもたちの心身の発育・発達に十分に配慮し、子どもたちのスポーツに対するニーズや技能レベルに合わせた指導を行い、スポーツの楽しみ方や取り組み方を指導する。

### 3. 指導者の問題点

私はスポーツ指導者の問題点として、部活動と少年団の指導者の意識の違いがあると考えている。口頭での調査などにより、指導者はスポーツを通した子どもの健全育成を願って活動していると思われる。また子どもたちに楽しく活動させてやろうと考えている指導者が多いと感じられた。それには本来のスポーツの楽しさが子どもたちに伝わらない危険性があると考えられ、その問題を解決するべきではないかという結論に至った。

### 4. 問題解決への一考察

私は子どもに対して厳しさを指導することが問題解決につながるのではないかと考えた。楽しいだけでなく真面目にスポーツしたいなど、厳しくしてほしいと思う子どもたちがいると考え

られる。子どもたちは厳しい表情や言葉遣いの怖い指導者を求めているのではなく、指導者に対してスポーツに集中できる環境を求めているのではないだろうか。今後より子どもを育む為には、厳しさを備えた指導者が必要であるという考えに至った。

**〔参考文献〕**

『スポーツ少年団 - 日体協 - 公益財団法人 日本体育協会 - 日体協』

〈<http://www.japan-sports.or.jp/club/tabid/66/Default.aspx>〉 (2015-12-01)